

水産のまち 愛南を学ぶ

海や漁村の地域資源を活用した「海業（つみぎょう）」で地域おこしを進める愛南町などを東京海洋大の学生30人が1〜4日に訪問。水産業の現場や研究拠点でフィールドワークを行い、産学官一体となつての地域の取り組みを学んだ。

東京海洋大生30人



愛南町の魚市場を見学する
東京海洋大の学生ら

漁港や研究拠点見学 給餌自動化など熱心に質問

海洋生命科学部海洋政策文
化学科2年の選択授業の一環
で、同町と宇和島市を訪れ、
同町では深浦漁港や水産会社
などを見学。魚市場で愛南漁
協の立花弘樹組合長が、環境
変化に伴う漁況変動や水揚げ
四国一のカツオを紹介し、餌
のイワシについて「世界的な
需要増や漁獲減で値段が上が
っている」と説明した。

町の魚病診断室や愛媛大南
予水産研究センターの拠点が
ある町西海支所では、水産会
社社長や町職員、愛媛大の研
究者がマダイ養殖の給餌自動
化、赤潮被害防止などの研究
事例を解説した。施設見学で
は魚の解剖実演もあり、学生
らは熱心に見入り、質問して
いた。

東京出身の飯田凜央子さん
(21)は「教育活動の展開や研
究成果の還元など、将来を見
据え地域全体で水産を盛り上
げている」と生産、研究、町
民の距離の近さを実感。母親
が宇和島市出身の安江誠さん
(19)は「愛南と宇和島で違い
もあり、事業者の特許技術な
ど先進的取り組みも面白かつ
た」と話した。

一行は宇和島市でもじゃこ
天作り体験などを行った。